

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 611 号] 2013 年 5 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 <http://bachchor-tokyo.jp/>  
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604  
Mail: [office@bachchor-tokyo.jp](mailto:office@bachchor-tokyo.jp) (変更) [bachchortokyo@aol.com](mailto:bachchortokyo@aol.com) (2013 年 2 月閉鎖)

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 611

May 2013

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 《ヨハネ受難曲》演奏と鑑賞の手引き [1]

### 《ヨハネ受難曲》の構成

大村 恵美子

2011 年《ロ短調ミサ曲》と 2013 年《マタイ受難曲》の定期演奏会の折に、プログラムに解説をのせると、あまり分厚くなるので、それぞれの「手引き」を別冊として、希望される方におわけした。団員および協演者の方々には、参考としていただくため、あらかじめ月報に分けて連載し、完結したものを 1 冊のパンフレットにまとめて、本番に間に合わせるように発行した。今回も、前 2 者にならって、月報連載を始めることにする。

#### 《ヨハネ》《マタイ》両受難曲の概観対比

創立 50 周年記念として、2011 年から 2014 年にかけて私たちはバッハの 4 大合唱作品の連続公演を行っている。それらを成立年代の順にあげてみると：

《ヨハネ受難曲》……………1724 年初演  
《マタイ受難曲》……………1727 年初演  
《クリスマス・オラトリオ》…1734/35 年初演  
《ロ短調ミサ曲》……………1724~49 年

すなわち、2 つの受難曲は、バッハがライプツィヒの音楽監督に着任 (1723 年, 38 歳) して間もない数年間に成立し、《クリスマス・オラトリオ》はバッハが 50 歳を迎える円熟期に、《ロ短調ミサ曲》はライプツィヒ移住直後から死去の前年まで、ほとんどライプツィヒ生活の全期間をかけて、生涯の総結集として築きあげたものであった。

2013 年 5 月の現在、去る 3 月 30 日に《マタイ受難曲》を演奏し終えたばかりの私たちは、ひきつづき《ヨハネ受難曲》の準備にかかっているのだが、今ここでは《クリスマス・オラトリオ》と《ロ短調ミサ曲》は措いて、2 つの受難曲を見合わせ、比較しながら、《ヨハネ受難曲》の解説を試みることにしよう。

#### バッハ 4 大合唱作品[日本語]連続演奏 (2011-2014)

- ① 《ロ短調ミサ曲》2011/12/3 (終了)
- ② 《クリスマス・オラトリオ I-III》2012/11/9 (終了)
- ③ 《マタイ受難曲》2013/3/30 (終了)
- ④ 《クリスマス・オラトリオ IV-VI》2013/12/7 (次回)
- ⑤ 《ヨハネ受難曲》2014/3/15 (最終回)

ライプツィヒ移住 (1723 年 5 月 22 日)。トーマス・カントル着任のバッハの、この当時の状況を、ヴェルナー・フェーリクスからの描写から引用する。妻のマリーア・バルバラをすでにケーテン在職中の 1720 年に失い、翌年アンナ・マグダレーナと再婚していた。

「当年 38 歳のカントルと 22 歳の妻は、5 人の子供を連れてトーマス学校内の住居に入った。うち 4 人は最初の妻とのあいだの子供で、カタリーナ・ドロテアが 15 歳、ヴィルヘルム・フリーデマンが 13 歳、カール・フィーリップ・エマーヌエルが 9 歳、ゴットフリート・ベルンハルトが 8 歳であった。再婚してから生まれたクリスティアーナ・ゾフィア・ヘンリエッタはまだやっと 3 ヶ月だった。長男フリーデマンと次男フィーリップ・エマーヌエルは、1723 年 6 月 14 日付けでトーマス学校に通学生として入学を許された。のちには 3 男のゴットフリート・ベルンハルトも、二人の兄を追って入学した。」(フェーリクス『J.S. バッハ 生涯と作品』杉山好訳、国際文化出版社 1985 年 p. 97)

それまでに、バッハは前妻との子供 4 人を、0 歳から 3 歳で亡くしている。妻子のいたましい死を、こんなに早くから重ねて経験していたバッハが、新任地での最初の受難週に、悲しみに溢れる作品として《ヨハネ受難曲》を一気呵成に書き上げた心境は、容易に想像することができる。

それに比べて《マタイ受難曲》はわずか 3 年後の作品だが、この 3 年間に、バッハの活動範囲は急速に拡がり、大きな責任も負わされることになり、教会音楽の事情にも深く通じて、十分な円熟段階に達するに至った。いみじくも、順を追って 2 つの受難曲が依拠したヨハネ、マタイの両福音書の性格が、バッハのそれぞれの時期の心象風景を、ぴったりと反映している。

《ヨハネ受難曲》は、求心的・尖端的で、エヴァンゲリストとコラールが密接に交替してストーリーを結末に向かわせ、その間に挟まれた 10 曲の独唱曲も、《マタイ受難曲》のように、立ちどまって詠嘆する傾向が少なく、先へ先へとストーリーを促している。全体の内容を概観してみると、つぎに示すように (次ページ表 1)、その違いは瞭然である。

表1:《ヨハネ》《マタイ》両受難曲の概観対比

《ヨハネ受難曲》(演奏:約120分)		《マタイ受難曲》(演奏:約180分)	
第1部(約40分)		第1部(約75分)	
①序曲	1	①序曲	1
—	—	②受難予告	2-4b
—	—	③香油を注ぐ	4c-6
—	—	④ユダの裏切り	7-8
—	—	⑤最後の晚餐	9-13
—	—	⑥オリーブ山	14-17
—	—	⑦ゲツセマネの祈り	18-25
②イエス捕縛	2-5	⑧イエス捕縛	26-29
③カヤパの審問	6-14	—	—
第2部(約80分)		第2部(約105分)	
④導入	15	⑨カヤパの審問	30-37
—	—	⑩ペテロとユダ	38-42
⑤イエスとピラト	16-26	⑪イエスとピラト	43-50d
—	—	⑫ゴルゴタ	50e-58
⑥十字架上のイエス	27-37	⑬イエスの死	59-63b
⑦埋葬	38-40	⑭埋葬	63c-68

すなわち《マタイ》が、第1部でたつぷりと時間を費やしながらか、受難予告、香油、最後の晚餐、オリーブ山、ゲツセマネの祈りとエピソードを重ねながら徐々に物語の核心に向かうのに対し、《ヨハネ》においては序曲の大合唱が終わると、いきなりクライマックスともいべきイエス捕縛の場面である。ヨハネ福音書の凝縮性、躍如と言えよう。

《ヨハネ受難曲》独唱・合唱の役割分担

《マタイ受難曲》と同様、《ヨハネ》もその依拠するテキスト、「ヨハネによる福音書」第18、19章を忠実にたどって音楽を展開している(下掲表2)。

冒頭と最終の大合唱、その間の要所に配置されるコラール(全12曲。うち1曲はバス・アリアに組み込まれる)、

表2:《ヨハネ受難曲》物語の場面分け

第1部					
①序曲	1	合唱	<わが主いと高き君よ>	*	
②イエス捕縛	2a	Ev.	イエス ケデロンのかなたに出でゆきぬ	ヨハネ 18:1-8	
	2b	合唱(兵士・下役ら)	「イエス ナザレのイエスを」		
	2c	Ev.	イエスは言えり:「われなり」		
	2d	合唱(兵士・下役ら)	「イエス ナザレのイエスを」		
	2e	Ev.	イエス 答えぬ:「われなりとすでに言えり」		
	3	コラール	<愛よ 大いなる愛よ>	B1	
	4	Ev.	かくて み言葉は成し遂げらる	ヨハネ 18:9-11	
	5	コラール	<み心 成れかし>	D1	
③カヤパの審問	6	Ev.	ここに彼らは イエスを捕らえて縛り	ヨハネ 18:12-14	
	7	アリア(A)	<罪の縄目より われを解き放たんと>	*	
	8	Ev.	ペテロは イエスのあとをつけぬ	ヨハネ 18:15	
	9	アリア(S)	<したがわん 主に 喜びいさみ>	*	
	10	Ev.	この弟子を 大祭司は知りたれば	ヨハネ 18:15-23	
	11	コラール	<主を かくも打ち>	D2	
	12a	Ev.	縛りたるまま イエスは カヤパに送らる	ヨハネ 18:24-27	
	12b	合唱(群衆)	「なれも 弟子のひとりならずや」		
12c	Ev.	否みてかれ言う:「しからず」 / ペテロ … そとに出で いたく泣けり			
	13	アリア(T)	<ああ わが心よ>	マタイ 26:75	
	14	コラール	<誓いしペテロも 主を否みぬ>	*	
				A1	
第2部					
④導入	15	コラール	<幸をほどこし ただしき主イエス>	C1	
⑤イエスとピラト	16a	Ev.	人々 イエスを裁きのやかたに引きゆく	ヨハネ 18:28-36	
	16b	合唱(群衆)	「悪しき者ならずば 渡さじ」		
	16c	Ev.	ここにピラトは言う:「彼を引きとり」		
	16d	合唱(群衆)	「死を与うる権利 われらになし」		
	16e	Ev.	こは おのが いかなる死を遂ぐるかを		
	17	コラール	<ああ大いなる とわの君よ>		B2
	18a	Ev.	ここにピラト言う:「されば なんじ 王なりや?」		ヨハネ 18:37-40
	18b	合唱(群衆)	「この人ならず ゆるせバラバを」		
	18c	Ev.	バラバは殺人者なり	ヨハネ 19:1	

	19	アリオーゾ (B)	<見よ わがたま 苦き喜び>	*
	20	アリア (T)	<いかに血に染む 主の背は>	*
	21 a	Ev.	兵卒ら いばらの冠を編み	ヨハネ 19:2-12
	21 b	合唱 (兵卒ら)	「やすかれ ユダヤの君」	
	21 c	Ev.	平手にて かれを打つ	
	21 d	合唱 (群衆)	「十字架に かけよ」	
	21 e	Ev.	ピラト かれらに:「引き取りて 十字架にかけよ」	
	21 f	合唱 (群衆)	「われらが掟 かの者を死に定む」	
	21 g	Ev.	これをピラトは聞きて 恐れつのみ	
	22	コラール	<捕らわれし なれば>	D3
	23 a	Ev.	ユダヤびと 叫びて言う:	ヨハネ 19:12-17
	23 b	合唱 (群衆)	「かれを赦さば 皇帝につける者にあらず」	
	23 c	Ev.	これをピラトは聞きて イェスを引き出だし	
	23 d	合唱 (群衆)	「除け かれを 十字架に」	
	23 e	Ev.	また ピラト言う:	
	23 f	合唱 (祭司長ら)	「いな われらには無し 皇帝のほかにも」	
	23 g	Ev.	かれ 渡せり イェスを	
	24	アリア (B) / 合唱 (群衆)	<急げ 悩めるころよ> / いずこ?	- *
	25 a	Ev.	そこにイェスを かれら 十字架にかけぬ	ヨハネ 19:18-22
	25 b	合唱 (祭司長ら)	「ユダヤの君と記さず かく記せ」	
	25 c	Ev.	ピラト 答え:「記せることは 記せるままに」	
	26	コラール	<こころの奥に 主のみ名のみ>	
⑥十字架上のイェス	27 a	Ev.	兵卒らは 十字架につけたるのち	ヨハネ 19:23-27
	27 b	合唱 (兵卒ら)	「これを裂くべからず 籤にて分かつたん」	
	27 c	Ev.	み言葉 成し遂げられんためなり	
	28	コラール	<主は 終りまで かえりみたもう>	A2
	29	Ev.	その弟子は み母を受けぬ	ヨハネ 19:27-30
	30	アリア (A)	<こと 終わりぬ>	*
	31	Ev.	こうべ垂れ 息 絶えぬ	ヨハネ 19:30
	32	アリア (B) / コラール	<尊き主 問わしめよ> <イェス 死によりて とわに生きたもう>	* A3
	33	Ev.	いざ見よ 聖所の幕 上より下まで二つに裂けたり	マタイ 27: 51-52
	34	アリオーゾ (T)	<ああ わが心よ いまや 地の上あまねく>	*
	35	アリア (S)	<溶けよ こころ 涙のうちに>	*
	36	Ev.	この日は 備えの日なれば	ヨハネ 19:31-37
	37	コラール	<神の子キリストよ 守りたまえ>	C2
⑦埋葬	38	Ev.	アリマタヤのヨセフという者 ひそかに	ヨハネ 19:38-42
	39	合唱	<憩え 聖なるかばね>	*
	40	コラール	<ああ 主よ 時いたらば>	D5

※: 右端の欄のA, B, C, Dは, コラールの分類を示す (連載第2回で触れる)。\*印はマドリガル風自由詩 (連載第3回に詳述)

および 10 曲の独唱歌をつないで筋書きをとおしてゆくのは、福音書を朗唱する福音史家 (エヴァンゲリスト) の役割で、そのなかに現われるせりふの部分は、不特定多数の群衆の場合には合唱 (トゥルバ) となり、役柄が特定される個人は、つぎのように独唱者が分担する。

: ペトロ (10, 12c)  
: 僕 (しもべ) (10, 12c)  
・ソプラノ: 女中 (10)  
・合唱: 群衆 (2bd, 12b, 16bd, 18b, 21df, 23bd)  
: 兵卒ら (21b, 27b)  
: 祭司長ら (23f, 25b)

#### ○語り (レチタティーヴォ) と群衆合唱 (トゥルバ)

- ・テノール: 福音史家 (エヴァンゲリスト)  
(2ace, 4, 6, 8, 10, 12ac, 16ace, 18ac, 21aceg, 23aceg, 25ac, 27ac, 29, 31, 33, 36, 38)
- ・バス: イェス (2ace, 4, 10, 16e, 18ae, 21g, 27, 29)  
: ピラト (16ace, 18ae, 21ceg, 23ce, 25c)

#### ○独唱歌

- ・ソプラノ (9, 35)
- ・アルト (7, 30)
- ・テノール (13, 20, 34)
- ・バス (19, 24, 32 コラール付)

<連載第1回、了>



東京バッハ合唱団  
**第40回 野尻湖コンサート**  
**“Afternoon with Bach-Music”**  
**バッハ作品の午後**

<日時>  
 2013年8月10日(土)  
 開演 4:00 PM

<会場>  
 国際村・神山教会  
 (長野県・野尻湖)

入場無料

<プログラム>

- チェロ独奏:  
 《無伴奏チェロ組曲 第1番》BWV 1007 より
- 合唱(日本語演奏):  
 カンタータ第76番《主の栄光を 天は語り》BWV 76
- みんなで歌いましょう:  
 コラール《イエス わが喜び》(カンタータ第147番より)

<演奏>

ヴァイオリン: 岩戸有紀子  
 チェロ: 船田裕子  
 ピアノ: 金澤亜希子  
 合唱: 東京バッハ合唱団  
 指揮: 大村恵美子

◎お問い合わせ: 東京バッハ合唱団事務局

第108回定期演奏会

《マタイ受難曲》を聴いて

◆杉野 誠一 様

長時間にもかかわらず、最初から最後まで緩むことなく、密度の濃い演奏を堪能でき、感謝しています。とくに後半からフィナーレにいたる盛り上がりは最高でした。指揮者と団員の方々おひとりおひとりの日頃の練習の積み重ねに敬意を表します。

また、テノールとヴィオラ・ダ・ガンバ(35)、アルトとヴァイオリン(39, 52)、バスとヴァイオリン(42)、ソプラノとフルート(49)、バスとヴィオラ・ダ・ガンバ(57)、フィナーレ近くのバスのアリア(65)などなど、楽器と一体となったアリアの素晴らしさを味わうことができたのも、大きな収穫でした。

全くの個人的な感想ですが、3.11の前と後とでは、私自身の身の処し方、モノの見方・考え方など変わらなければいけないと思いつつ、変わっていない自分をいつも感じています。その意味で、今回の「マタイ受難曲」は大きなインパクトを与えてくれたように思います。(3.11で被災された八重樫ご夫妻の歌っているお姿に感動しました。)[ボン・ヘッファー研究会員]

バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧 ③

<p>BWV 22 《イエス 十二弟子よびて言いたもう》(1723)          Jesus nahm zu sich die Zwölfe  <b>【教会暦】</b>復活節前第7日曜日(他に BWV 23, 127, 159)  <b>【書簡】</b>第1コリント 13:1-13。信仰、希望、愛のなかで最も大きいなるものは、愛である。  <b>【福音書】</b>ルカ 18:31-43。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」</p>
<p>BWV 23 《主なる神 ダビデの子》(1723)          Du wahrer Gott und Davids Sohn  <b>【教会暦】</b>復活節前第7日曜日(BWV 22, 127, 159)  <b>【書簡】</b>第1コリント 13:1-13。BWV22に同じ。  <b>【福音書】</b>ルカ 18:31-43。(同上)</p>
<p>BWV 24 《直く 清らに 澄みたる心は》(1723)          Ein ungefärbt Gemüte  <b>【教会暦】</b>三位一体節後第4日曜日(BWV 177, 185)  <b>【書簡】</b>ローマ 8:18-23。被造物がすべて…わたしたちも、神の子とされること、つまり、身体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいる。  <b>【福音書】</b>ルカ 6:36-42。人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。</p>
<p>BWV 25 《わが身は なが怒りうけ いたく病む》(1723)          Es ist nichts Gesundes an meinem Leibe  <b>【教会暦】</b>三位一体節後第14日曜日(BWV 17, 78)  <b>【書簡】</b>ガラテヤ 5:16-24。BWV 17に同じ。  <b>【福音書】</b>ルカ 17:11-19。(同上)</p>
<p>BWV 26 《はかなく むなしき 地なるいのち》(1724)          Ach wie flüchtig, ach wie nichtig  <b>【教会暦】</b>三位一体節後第24日曜日(BWV 60)  <b>【書簡】</b>コロサイ 1:9-14。御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してください。  <b>【福音書】</b>マタイ 9:18-26。イエスの服に触れる女を癒し、死んだ指導者の娘を生き返らせる。</p>
<p>BWV 27 《わが終り近づくや 知るはただ主のみ》          Wer weiß, wie nahe mir mein Ende?  <b>【教会暦】</b>三位一体節後第16日曜日(BWV 8, 95, 161)  <b>【書簡】</b>エフェソ 3:13-21。BWV 8に同じ。  <b>【福音書】</b>ルカ 7:11-17。(同上)</p>
<p>BWV 28 《頌むべきかな 年終り》(1725)          Gottlob! nun geht das Jahr zu Ende  <b>【教会暦】</b>降誕節後第1日曜日(BWV 122, 152)  <b>【書簡】</b>ガラテヤ 4:1-7。あなたはもはや奴隷ではなく、神の子であり、相続人である。  <b>【福音書】</b>ルカ 2:33-40。幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。</p>
<p>BWV 29 《み神に謝しまつらん》(1731)          Wir danken dir, Gott, wir danken dir  <b>【用途】</b>(教会暦には関連せず)市参事会員交替式(BWV 69, 71, 119, 193。BWV 71 以外はライブツィヒ、8月最終月曜日)          第2曲=詩編 75:2。神よ、あなたに感謝をささげます。</p>
<p>BWV 30 《喜べ 救われし民》I (1738)          Freue dich, erlöste Schar  <b>【教会暦】</b>洗礼者ヨハネの祝日(6/24 固定)(BWV 7, 167)  <b>【書簡】</b>イザヤ 40:1-5。BWV 7に同じ。  <b>【福音書】</b>ルカ 1:57-80。(同上)</p>
<p>BWV 31 《天は笑い 地はどよめく》(1715)          Der Himmel lacht! Die Erde jubiliert  <b>【教会暦】</b>復活節第1祝日(BWV 4)  <b>【書簡】</b>第1コリント 5:6-8。BWV 4に同じ。  <b>【福音書】</b>マルコ 16:1-8。(同上)</p>
<p>BWV 32 《いとしきわがイエス わが望み》(1726)          Liebster Jesu, mein Verlangen  <b>【教会暦】</b>顕現節後第1日曜日(BWV 124, 154)  <b>【書簡】</b>ローマ 12:1-6。自分を過大に評価せず、キリストに結ばれて一つの体をつくる。  <b>【福音書】</b>ルカ 2:41-52。エルサレムの帰路、両親は12歳のイエスを見失う。「自分の父の家にいることを知らなかったのですか」</p>